

クールアース・デーに向けた政府の取組

平成20年6月27日現在

【全府省的な取組】

◇ 率先したクールアース・デーへの参加

クールアース・デー（7月7日）について職員に周知するとともに、新たに定時退庁日及びノーカー・デーに設定。業務上支障のない限り、20時までには業務を終了し、執務室の照明を消灯。不要不急の公用車の使用自粛を徹底。

◇ 所管施設のライトダウン

所管施設が通常ライトアップされている場合、支障のない限り、20時から22時までの間はライトダウン。

◇ 所管団体への周知、取組依頼

所管団体に対して、クールアース・デーに関する情報を提供するとともに、セタライトダウンや1人1日1kgCO₂削減運動への参加等の取組を依頼。

【各府省における取組】

<7月7日に実施>

◇ セタライトダウン

・6月21日～7月7日までの期間、「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」を実施。特に7月7日（クールアース・デー）は、夜8～10時の間、全国のライトアップ施設や各家庭のあかりを一斉に消灯して頂く「セタライトダウン」を広く呼びかけ。

具体的に、ライトダウンのホームページの創設、各省・都道府県・政令指定都市・主要業界団体等への協力依頼の発出、ポスター・ステッカーの配布、呼びかけ人会の発足及び6月21日のライトダウンイベント（東京）への大臣の参加等を実施。（環境省）

・レインボーブリッジ、明石海峡大橋をはじめ橋梁等照明のライトダウンを実施。（国土交通省）

◇ 「セタライトダウン」を全国の学校に周知（文部科学省）

クールアース・デー「セタライトダウン」について、全国の学校（国公立の幼・小・中・高・大・専修・各種学校で約6万校）に、各家庭や職場における実施促進のための周知を行い、子どもたちが地球環境の保護について広く学びきっかけを与える。

◇ グリーン・エネルギー・促進ウィーク（経済産業省）

経済産業省が設立を支援したグリーン・エネルギー・パートナーシップの主催で、サミットにあわせた「グリーン・エネルギー・促進ウィーク」（7月5日～11日）において、東京タワー、レインボーブリッジ、さっぽろテレビ塔、名古屋テレビ塔、大阪通天閣等にて、グリーン電力の利用を行う。特に、7月7日（クールアース・デー）においては、夜間に「セタライトダウン」も実施。（※「セタライトダウン」を行う7月7日以外については、一部を除く各施設等にて緑色の点灯を実施。）

- ◇ クールアース・デー記念イベント in 札幌（環境省）
札幌においてクールアース・デー記念イベントを実施。あかりをテーマにした国際シンポジウム及び大倉山ジャンプ競技台でのライトダウンイベントを実施。
- ◇ クールアース・デー記念テレワークセミナーの開催（総務省）
クールアース・デーにちなみ、テレワークを低炭素社会の実現という観点からも着目し、我が国が今後目指すべきワークスタイル、ライフスタイルについて考えるセミナーを開催。

<7月7日前後の期間に実施>

- ◇ 百貨店・映画館など公共空間での Cool Biz(クールビズ)の本格実施及び Cool Biz+(クールビズプラス)のPR展開（6月1日～9月30日、環境省）
日本百貨店協会加盟店舗や映画館での本格実施。新聞広告等の実施
- ◇ 食育シンポジウムの開催（6月13日～25日、農林水産省）
地域の生産者や学校における地場産食材を活用した給食の取組事例を紹介し、食育の意義や効果等に関する意見交換会を開催。
- ◇ 省内食堂における国産食材活用の取組（6月24日～、農林水産省）
食料自給率の向上や米の消費拡大を積極的に推進する職員食堂を農林水産省内に開設。一般国民にも開放することにより、企業の社員食堂や外食産業に同様の取組が広がることを期待。
- ◇ 「割り箸」リサイクルに関するシンポジウムの開催（6月26日、農林水産省）
札幌市内において、広く市民に「割り箸」リサイクルから考える循環型社会の共創を啓発するとともに、「割り箸」をキーワードとした環境問題に企業、NPO、消費者が地域でどのような協働を実現できるか等について議論。
- ◇ 第2回美しい森林づくり全国推進会議（6月27日、農林水産省）
「美しい森林づくり推進国民運動」を進める民間組織として昨年6月に設立された「美しい森林づくり全国推進会議」の2回目の全体会合で、構成団体等がこれまでの活動について報告。
- ◇ 洞爺湖エコ・ギャラリーを中心とした環境スタンプラリーの実施(6月27日～8月31日、環境省)
スタンプラリーを通じて、洞爺湖畔を訪れた方々に地元の温暖化防止の取組と魅力、クールアース・デーについて周知
- ◇ 新千歳空港の環境展の実施（6月28日～7月13日、環境省）
「新千歳 ECO AIRPORT 2008」において、クールアースアンバサダーの環境メッセージ等を展示
- ◇ バイオマスタウン・ツアー（6月30日、農林水産省）
わが国独自の取組であるバイオマスタウンを世界に発信するため、国内外報道関係者等を対象に、洞爺湖町周辺地域のバイオマスタウンを巡るツアーを実施。
- ◇ 全国バイオマスタウン・サミット（7月2日、農林水産省）
全国のバイオマスタウン構想公表市町村（147市町村）の首長が一堂に会し、情報共有を図ると共に、宣言を採択。

- ◇ 地球温暖化対策に関する研究協議会の開催（7月2日、文部科学省）
地球環境の保護や喫緊の課題である地球温暖化対策について、私立大学における可能性を検討・模索（日本私立大学協会主催）
- ◇ 「Miraikan フォーラム 2008」の開催（7月5日、文部科学省）
地球温暖化問題に関して最先端科学研究の成果をもとに、市民、政治家、第一線の研究者（約100人規模）が一堂に会して議論するフォーラムを開催（日本科学未来館）
- ◇ クールアース・テレワーク週間の実施（7月7日～7月18日、総務省）
7月7日からの2週間を「クールアース・テレワーク週間」とし、全国のテレワーク導入企業等に対し、積極的にテレワークを実施する期間として参加を呼びかけるとともに、総務省としても同週間に職員によるテレワークを重点的に実施し、クールアース・デーを起点とする全国的なクールアース・テレワーク週間の展開を図る。
- ◇ クールアース・デー記念展示（7月7日～19日、環境省）
ストップおんだん館（東京・神谷町）で「岩合光昭写真展：地球温暖化の目撃者～アフリカ・キリマンジャロ編」を開催。
- ◇ 「子ども霞が関見学デー」環境関連イベントの実施（7月～8月、文部科学省）
全国の青少年教育施設・学校等の主催で子どもたちの環境に関する体験活動等の機会となるような取組を実施

<広報関係>

- ◇ クールアース・デー、セタライトダウン、1人1日1kgCO₂削減運動、クールアースアンバサダーの環境メッセージなどを、新聞広告やホームページに掲載（環境省）
- ◇ クールアース・デーに関する政府広報の実施（内閣府）
- ◇ クールアース・デーの取組を在外公館を通して諸外国に広報（外務省）
- ◇ 地域において「国民運動」を実施する団体等を通じて、地元のメディアやホームページ、シンポジウム等でクールアース・デーのPR活動を実施（経済産業省）

※ 関係団体等の協力を得て、実施するものを含む